

【参考資料】

私は現在37歳です。人の寿命で考えるなら半ばまで参りました。学生時代はバブル期の真っ只中で、社会人になったのは泡が弾けたころでした。

しかし景気とは反して、建設への投資、所謂公共事業は右肩で上がっていました。

街のあちらこちらでビルやマンションを建設する足場やタワークレーンが立ち並んでいました。

そんなころに私は建設業界へ就職いたしました。

子供のころより社会人となって以降も経済の成長を疑う余地も無かったように思います。

少なからず裕福である家庭もそうでない家庭もありましたが、国自体の底上げにより皆が「豊かさ」や「成長」を感じていたのではないでしょうか。

しかし今、我々が直面しているのは、当時のそれとはまったく異なるものです。

「閉塞感」 「衰退」 「空洞化」

そんな単語が世の中を常に飛び交います。

更に「少子高齢化」により社会構造自体が変革を求められているのです。

今まで地域社会を支えてきたコミュニティーも高齢化に伴い空洞化して行き、またその生活インフラを支えてきた商店なども、大型ショッピングセンターのような複合施設に飲み込まれる形となっていきました。

公共インフラの整備により様々なサービスが郊外化していく中、その郊外開発に皆が恩恵を受けたのは紛れもない事実でしょう。

しかしそうして開発された街も少子高齢化に至り、空洞化を止めることが出来なくなりつつあります。人がいない所では商売として成立し難いがため、当然でしょう。

住もう人が減少し、消費量が減少する、故に商いとして成立する場所へ移転していくのです。

人が集まらなくなると電車もバスも数が減る。その上で新規に住もうという選択はし難くなるでしょう。結果、高齢化、空洞化していき、交通や医療等を含む公共・行政サービスも受けづらくなっています。

こうした要因等から高齢者は自らの生活環境の確保のため、公共・行政サービスを求めて都市部へ移住を選択します。

東京の人口のピークが2020年と予測される理由には、このような背景があります。

従来、自治会や町内会、商店街などにより構成されていたコミュニティー、社会構造自体が変革せざるを得ないのでしょう。

すわなち、これらは抗えない流れということになります。

我社は建設会社であり、物を建設してなんぼの業界にいます。

しかし公共投資は激減し、既に田んぼの中の道までもアスファルト舗装が施されている現状がここにあります。つまり、一通り整備されてしまったのです。

新たな建設ラッシュがあるというのは考えにくく、箱物もまた然りと考えます。

現在の住宅供給ペースで住宅が新築されていくと、2040年には3軒に1軒が空き家となる試算になります。もちろんそれまでに新築住宅戸数は大きく減少していくでしょうし、マンションやアパートの建設自体も不必要になります。住宅の飽和状態が既に起こっているのです。加えて少子化が進むため、他の施設においても新規建設というのは激減していくでしょう。

しかし我社は建設会社です。そしてその技術に誇りを持っています。

私が常に思うことは、建設技術の評価、対価が低すぎるのではないかということです。

我々の技術はもっと評価されるべき高い技術であると自負しています。

しかし建設需要というのは他のビジネスモデルの中の一部分として必要とされることが多いのではないかでしょうか。たとえば医師が開業する為に病院を建設してほしい、などが例としてあげられます。これは医業のビジネスモデルの中の必要な要素のひとつとして求められており、全体の収益構造の中で「相手の予算有きの話」ということになります。

建設工事が減少しつつある今日、必ず何処かがその問題を予算の中で請負うことになります。業界自体に負のスパイラルが起こるのです。

マンション建設も同様、デベロッパーが決めた予算で出来る会社が選定されています。

そこで私は自らの生み出すビジネスモデルの中で、誇れる技術を買ってもらえないだろうかと考えました。

何度も申しますが、我社は建設会社です。しかし情報化社会の中、自分たちの技術を世に出し選択してもらう術を自らで持たなくてはならないのです。

今後変化していく社会構造、それによりどういった社会現象が起こり得るのか。それは冒頭で述べた人口の推移による現象です。

避けることの出来ないこの事実を如何にして受け止め、どのように対応していくのか。そして我々はどう在るべきなのか。その通過点を迎える時に、誇れる企業であり、胸を張れるサービスでなければ、ただの錢儲けにしか過ぎないのです。

「我々の建設技術を活かし都市部に新たなコミュニティーを創る」

今後の世帯構成は高齢者・単身者・夫婦と子・片親と子といったものが多くなり、以前よ

り建設してきた間取りや用途では、おそらく不一致が起こるでしょう。3LDK、4LDKというような間取りの部屋は需要と合わなくなるのです。

誰もが簡単に自分自身の理想を思い描けたなら。

そこで私が考案するシステムは、オンライン上でマンションの間取りを作成し、見積りを提示する、といったものです。このシステムにより、誰でも気軽に新しい生活空間を描くことが出来ます。そしてそれぞれの理想を、マンションリフォームを通して構築していくのです。

マンションの1階に医院があれば高齢者も単身者も安心して暮らすことが出来、その隣にスーパーがあれば自分で好きなものを好きな時に調達出来ます。一人で自立した暮らしを少しでも長く送れる環境、新しいコミュニティーを創造するのに我々の技術を使っていきたいのです。

ありがとうと言ってもらえる。

夢を実現する。

本当の豊かさの為に、必要とされる技術屋としてある。

これらは私の願いなのです。